

輝くねむろ

We Love Nemuro!



歩けなくても、やれることはある



治療中の会話も心のリハビリ

「実は、白衣にあこがれていたんです。」と、笑顔いっぱい話してくれるのは、自宅での転落事故で車いす生活となってしまいながらも、地域医療に貢献したいと、理学療法士として復帰した清野奈緒さんです。

理学療法士は、主に運動機能障害を回復するリハビリなどを行います。「患者さんを治療するときの触れ合いが、とても楽しい職業なんです。」と、清野さんは自分が選んだ仕事に誇りを持っています。

リハビリは、痛みを和らげるだけでなく、痛みによる日常生活の問題を解決しなければなりません。そのためには

患者としっかり向き合い、信頼関係を築くことが大切です。歩くことができない清野さんだからこそそのアドバイスや「これから一緒にがんばろうね。」の一言は、患者の不安を吹き飛ばし、たくさんの勇気を与えてくれます。

現在は、お年寄りの心身の健康づくりのために、市が実施している「おたっしや教室」にも協力しています。「車いすでも楽しく意欲的に暮らせるのは、リハビリの勉強のおかげです。」事故を克服し、だれよりも患者の目線に立つことができる清野さんは、しっかりと根室の医療を支えています。

profile せい の な お 緒 さん 清野 奈緒 さん 理学療法士

1985年根室市生まれ。平成15年4月、北海道千歳リハビリテーション学院入学。平成20年、理学療法士国家試験に合格。平成21年7月、自宅での転落事故により脊髄を損傷するも、同年12月、トキワ医院の理学療法士として復帰。車いすバスケットボールやアウトドアを楽しむ。

千島桜を望む窓

市長室のカレンダー

市では、市民皆さんにお知らせしたい情報を、広報紙やホームページなど使い発信していますが、喫緊の情報は新聞・テレビなどの報道機関の協力を得て皆さんにお届けしています。

そのような情報を提供するため、市長を囲んでの「定例記者懇談会」を毎月1回開催しています。

1月の懇談会は21日に開かれ、「新市立根室病院の外観パース」や「北方領土の日根室管内住民大会の開催」「戸籍情報システム」など9項目が長谷川市長から発表されました。報道機関からは、1項目ごとについて質問が寄せられたほか、参考にさせていただくユニークなアイデアなどの提案も飛び交いました。

情報提供後の「自由懇談」では、1月11日から16日まで、サンマ輸出プロジェクトの1環でベトナムを訪問していた市長へ、ベトナムでの状況や今後の取り組みのほか、「南極大陸(仮)」のロケにかかわる話題がテーブルに上がりました。

今後市政情報を、市民皆さんへいち早くお届けするため、報道機関皆さんのご協力を得ながら取り組んでいきます。

